

溶ける光 ©HIROSHI YAMAZAKI

タイムトンネルシリーズ Vol.28

# 山崎 博展

「動く写真! 止まる映画!!」

2009年5月11日(月)→6月5日(金)  
11:00a.m.~7:00p.m. 日・祝日休館 入場無料

第一会場 クリエイションギャラリーG8  
〒104-8001 東京都中央区銀座8-4-17 リクルートGINZA8ビル1F TEL:03-3575-6918  
第二会場 ガーディアン・ガーデン  
〒104-0061 東京都中央区銀座7-3-5 リクルートGINZA7ビルB1F TEL:03-5568-8818



# 山崎博展

「動く写真! 止まる映画!!」

2009年5月11日(月)→6月5日(金) 11:00a.m.—7:00p.m.

日・祝日休館 入場無料 ※土曜日も開館します。

第一会場 クリエイションギャラリーG8

〒104-8001 東京都中央区銀座8-4-17 リクルートGINZA8ビル1F TEL:03-3575-6918

第二会場 ガーディアン・ガーデン

〒104-0061 東京都中央区銀座7-3-5 リクルートGINZA7ビルB1F TEL:03-5568-8818

主催: クリエイションギャラリーG8 / ガーディアン・ガーデン

<http://rcc.recruit.co.jp/>

1969年、23歳で写真家としてスタートした山崎博。当初、舞台や雑誌の仕事を手掛けていましたが、被写体自体が主張する写真や、被写体を探するという行為に対して次第に興味を失っていきました。やがて、自宅の窓から見える風景を撮るようになり、窓枠をフレームとして規定し、手法を単純化することで見えてくる写真というメディアを模索し始めます。そして、いつもと変わらぬ窓枠の中に飛行機雲が出現したとき、そこに時間という概念が刻み込まれ、与えられた状況の中でも写真が成立することを確信したのです。

「地球上に存在する一番プリミティブな形」として被写体に選んだ太陽と海を長時間露光で撮影した代表作「HELIOGRAPHY」では、太陽の軌跡が肉眼では見ることのできない世界を描き出しました。また、日本人にとって特別な存在である桜も被写体に据えています。光を触媒にして撮る桜は、桜という既存概念を見事に裏切ります。写真のみならず、映画も撮り続けていますが、それぞれが影響し合い、独自の思考と表現を高めることになりました。

「写真を成り立たせる最小の要素は光軸と時間軸」と考える氏の作品は、時には難解な印象を与えます。しかし、その写真の根底にあるのは「Simple is best」であり、カメラという道具を使って、誰も試みたことのない方法で「写す」ことを追求し、新しい表現を生み出してきました。

本展では、初期の作品「EARLY WORKS 1969-1974」から、代表作「HELIOGRAPHY」、「水平線採集」、「櫻」を中心に、現在にいたるまでの写真と映画をご紹介します。



1969 土方舞



1974 風景に、手を加える



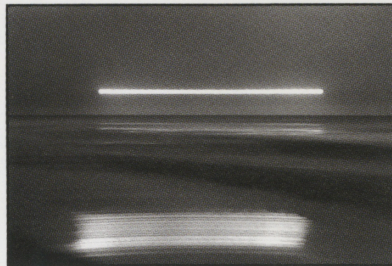
1981 水平線採集



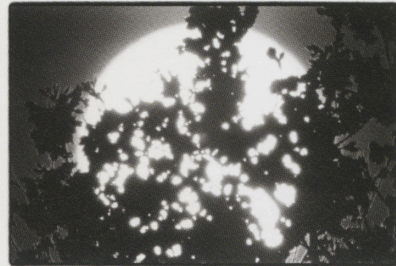
1981 HELIOGRAPHY



1982 OPTICAL LANDSCAPE



1983 THE SUN IS LONGING FOR THE SEA



1990 櫻

## オープニングパーティー

5月11日(月) 7:00p.m.—8:30p.m. 両会場にて行います。

7:30p.m.—8:00p.m. はクリエイションギャラリーG8にお集まりください。

## 第211回 クリエイティブサロン

日 時 / 5月29日(金) 7:10p.m.—8:40p.m.

会 場 / クリエイションギャラリーG8

入場無料 要予約 (TEL: 03-3575-6918)

ゲスト / 榎本了彦 (クリエイティブ・ディレクター / プロデューサー)、

萩原朝美 (映像作家 / 演出家)、山崎博

## 山崎博インタビュー小冊子

今回の展覧会開催にあたり、幼少時代から現在にいたるまで、また、写真に対する思いなどを語っていただきました。

A5サイズ モノクロ約60ページ 500円

タイムトンネルシリーズは、第一線で活躍する作家のデビュー当時から現在に至るまでの作品を紹介し、その発想や表現方法の原点を探ろうとする展覧会です。

## 展覧会に向けて 山崎博

例えば、ヤン・ディベッツ。「オランダの山」というタイトルの作品がある。それは、水平線の写真を横に多数連ねた作品であるのだが、その横長に連ねられた細かい写真達は、直線ではなく、歪曲し、中央が持ち上げられたり、引き下げられたり、と構成され一つの画面となっていた。最初に目にした若い時には「エレガントなコンセプト」といった様な時代性を感じたものだった。

最近オランダの作家を通して風土を語る「オランダの光」というビデオを見て、ディベッツがオランダ人であること、風景が本当に平らである事に改めて着目させられた。

彼の「山」はコンセプトである以前に、風土から生まれた「夢」だったのだと思えた。モンドリアンもそんな風土が生んだ抽象であったのだ。

DNAのなかの「風土」が気にかかる年代になった、そんな事だろうか。

なんだか写真に関係の無い、コメントになってしまった……。



2001 桜花園



2001 桜花園



山崎博 Hiroshi Yamazaki

1946年長野県生まれ。'68年日本大学芸術学部中退後、寺山修司の「天井桟敷」で舞台監督を務める。'69年より写真を、'73年より映画制作を始める。'74年初個展「OBSERVATION・観測概念」(ギャラリー・グラフィカ)以降、「ニュー・ジャパニーズ・アヴァンギャルド・フィルム」(ニューヨーク近代美術館)、「自画像・日本展」(ICP, アメリカ)等国内外で展覧会多数。'83年太陽の長時間露光による一連の作品にて日本写真協会新人賞、'94年全国カレンダー展総理大臣賞、'01年展覧会「桜花園」にて第26回伊奈信男賞を受賞。写真集に『HELIOGRAPHY』(青弓社)、『水平線採集』(六耀社)がある。パーマネントコレクションは、ニューヨーク近代美術館、プリンストン大学美術館、東京都写真美術館他多数。現在、武蔵野美術大学教授。

